



# 千葉労働動力

## いざ9.24 全国労働者 総決起集会 へ立て!

清算事業団闘争は、不当解雇から半年、この秋また新たな闘いの焦点を迎えようとしている。

政府自民党は、清算事業団闘争が自らの足元を掘り崩しかねないことへの危機感にかられて、「連合」・中労委などをつ

かつて、国労を「今秋闘争終結」＝和解に引きずりこもうとしている。こうした状況のなかで、中労委は、九月一〇月にも「和解案」を提示するであろうと言われている。しかし、すでに「分割・民営化の容認、労使共同宣言の締結、全労協からの脱退、四・一解雇を認めることが前提」などという、全面屈服を迫る条件まで検討されている。

労働千葉に対する不当処分、このような清算事業団闘争圧殺攻撃と全く一体をなす攻撃である。また、JR当局は、これに加え、九月一日「スト損害賠償請求

結願望にとりつかれ、「政治決着・和解路線」への埋没をより深めている状態である。まさに、清算事業団闘争は、完全勝利に向けて新たな一歩を踏み出すのか、勝利の地平を切りひらきながら一敗地にまみれてしまうのか、重大な岐路を迎えていると言えよう。

労働千葉に対する不当処分、このような清算事業団闘争圧殺攻撃と全く一体をなす攻撃である。また、JR当局は、これに加え、九月一日「スト損害賠償請求

訴訟」を提訴してきた。われわれは、不当処分・スト損害攻撃と、職場を監獄のごとき状態に置く異常な強権的労務支配をはじめとした労働千葉根絶攻撃に対し、この秋、組織を挙げた反撃を準備しなければならぬ！

結合して、自衛隊の海外派兵策動、吹き荒れる天皇制攻撃をはじめ、侵略と専制的国家体制づくりへ向けた政治反動攻撃と全力をあげて対決しなければならぬ！

### 九、一四反弾圧闘争

かちとる！

雨の都心を

意気高くデモ！



九、一四反弾圧闘争は、あいにくの雨の中、労働千葉をはじめ不屈に闘いぬいている争議団が結集し、権力の挑発・弾圧をはねのけ日比谷までの都心デモを貫徹した。

全体集会の前段に、過日、九月一日結成された、東京労組交流センターの独自集会がかちとられ山田組織部長が力強く決意表明を行った。

参加は約百団体となった。それぞれは未だ少数ではあるが大きな目標と高い意識性をもって元気に闘っている。結集した総ての仲間は、九〇年代の激動に真正面から挑戦する決意に満ちていた。

行おうとしている。又、同時に国内の強権的支配体制を固めるために、天皇を再び「神聖不可侵な存在」へとまつり上げるために「即位の礼」「大嘗祭」攻撃を強めているのである。



### 九、一六三三三里塚現地集

九月一六日、反対同盟の要請に応え、現地集會に参加してきた。降りしきる雨の中で、

泥にまみれながらも、反対同盟農民の不屈の闘魂にふれ、胸を熱くして帰ってきた。政府、公団、機動隊は天下の悪法「成田治安法」をふりかざし団結小屋破壊等々の暴挙を繰り返している。